

産業廃棄物処理計画書の記入要領

(※特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書も準じて作成してください)

項 目	説 明
提出者について	産業廃棄物処理計画書の提出者は、多量排出事業者が法人の場合は法人の代表者です。ただし、処理計画実施状況報告書の作成単位である支店等の代表者で提出することもできます。
提出者の住所	提出者の住所を府県名から記載してください。個人事業者の場合も考え方は同様です。
提出者の氏名	個人の場合は個人の氏名を記入してください。屋号がある場合には屋号も記載してください。法人の場合は法人名、支店等の名称、代表者の氏名を記入してください。(代表者印、会社印等の押印は不要です。)
提出者の電話番号	上記提出者の電話番号を記入してください。
事業場の名称	産業廃棄物を排出する工場、営業所、支店、病院名等の名称を記入してください。
事業場の所在地	上記事業場の所在地を記入してください。
計画期間	処理計画の計画期間を記入してください。
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
事業の種類	日本標準産業分類の「中分類」に該当するコードを記入してください。
事業の規模	製造業の場合は製造品出荷額(前年度実績)、医療機関は病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かる前年度実績を記入してください。
従業員数	事業場の従業員数を記入してください。
産業廃棄物の種類について一連の処理の工程	当該事業場において生ずる産業廃棄物について、発生から最終処分が終了するまでの一連の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む)を記入してください。
産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
管理体制図	管理体制図には産業廃棄物と各部署との役割が分かるものを記載してください。書き切れない場合は、別紙のとおりとし、別紙を添付してください。
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	
産業廃棄物の種類・排出量	産業廃棄物の種類ごとの排出量(トン単位)の「①現状(前年度実績)」と「②計画」を記入してください。 (※産業廃棄物の種類が3種類以上ある場合は、右側のセルに続けて入力してください。以下、第2面～第5面については同様です。) 又は、次ページにある集計用シートに排出量等の必要事項を入力することにより、これらの記入箇所を「別紙のとおり」とすることもできます。
実施した(実施予定の)取組について	取組内容及び対象となる産業廃棄物の種類を記載するなど、記入例を参考に、具体的に記載してください。
産業廃棄物の分別に関する事項	
	分別に関する産業廃棄物の種類及び取組について、「①現状」と「②計画」を記載してください。
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	
	自ら行う産業廃棄物の再生利用について、産業廃棄物の種類ごとに、前年度の実績、今年度の目標及び取組を記入してください。
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	
	産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、今年度の目標及び取組を記入してください。
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項	
	自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分について、産業廃棄物の種類ごとに、前年度の実績、今年度の目標及び取組を記入してください。
産業廃棄物の処理の委託に関する事項	
	産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
その他留意事項	

別紙の添付について	それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入してください。
個人情報記載について	処理計画書は、公表制度（公衆への縦覧（H23.10.1からはインターネットによる公表））の対象となるため、代表社印、社員の個人名等、個人情報に該当する内容については、記載しないようにしてください。
(集計用シート)	
集計用シートの取扱について	この集計用シート（「前年度実績」と「今年度目標」）は廃棄物処理法上の様式ではなく必ず提出するものではありませんが、産業廃棄物の種類が3種類以上ある場合は、このシートを利用することにより報告が簡易になり、また実績量や計画量等を容易に把握できますのでできるだけ作成の上、提出のご協力をお願いします。
提出者の住所、名称、担当部署等について	提出内容について、確認のご連絡をさせていただくことがありますので、記入をお願いします。
産業廃棄物の種類について	シートには20項目の産業廃棄物の名称が入力可能です。産業廃棄物の種類別にコードの記入をお願いします。
①排出量	当該事業場において生じた産業廃棄物の量
②自ら直接再生利用した量	①の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
③自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量	①の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
④自ら中間処理した量	①の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
⑤④のうち熱回収を行った量	④の量のうち、熱回収を行った量
⑥自ら中間処理した後の残さ量	自ら中間処理をした後の量
⑦自ら中間処理により減量した量	④の量から⑥の量を差し引いた量
⑧自ら中間処理した後再生利用した量	⑥の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
⑨自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	⑥の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	中間処理及び最終処分を委託した量
⑪優良認定処理業者への処理委託量	⑩の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
⑫再生利用業者への処理委託量	⑩の量のうち、処理業者への再生利用委託量
⑬熱回収認定業者への処理委託量	⑩の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	⑩の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
②+⑧自ら再生利用を行った量	②の量と⑧の量を合計したもの
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	③の量と⑨の量を合計したもの

前 年 度 【平 成 〇 〇 年 度】 実 績

記載例

掲 出 者						
住 所	名 称	担当部署	担当者名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の住所	産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の名称	報告担当部署の名称	報告担当者の氏名	報告担当部署の電話番号	報告担当部署のFAX番号	報告担当部署の電子メールアドレス
大阪府大阪市中央区大寺前2丁目	大阪大寺前化学株式会社	総務部庶務課	大阪 太郎	06-0000-0000	06-0000-0000	

産業廃棄物の種類	計 画 の 実 施 状 況											②+⑧	③+⑨					
	①排出量 (t)	②自ら直接 再生利用した量 (t)	③自己直接立 処分又は海洋投 入処分した量(t)	④自ら中間処理した 量(t)	⑤④のうち 熱回収を行った量 (t)	⑥自ら中間処理 した後の残さ量 (t)	⑦自ら中間処理 により減量した量 (t)	⑧自ら中間処理 した後再生利用 した量 (t)	⑨自ら中間処理した 自ら埋立処分又は海 洋投入処分した量(t)	⑩直接及び自ら 自己処理した後の 処理委託量 (t)	委託先による区分 (⑩=①-②-③-④+⑥-⑦-⑧)=⑩+⑪+⑫+⑬)				⑪優良認定処理業者 への処理委託量(t)	⑫自ら再生利用 を行った量(t)	⑬自ら埋立処分又は海洋 投入処分を行った量(t)	
コード	名 称																	
コード 参照	産業廃棄物の種類	発生した産業廃棄物の 種類ごとの量	①の量のうち、中間 処理をせず直接自ら 再生利用した量	①の量のうち、中間 処理をせず自ら埋 立処分又は海洋投 入処分した量	①の量のうち、自ら 中間処理した産業 廃棄物の当該中間 処理前の量	④の量のうち熱回 収を行った量	④の量から⑥の量 を差し引いた量	⑤の量のうち、自ら 利用し、又は他人に 売却した量	⑥の量のうち、自ら 埋立処分及び海洋 投入処分した量	中間処理及び最終 処分を委託した量	⑩の量のうち、処理業 者への再生利用委託 量(⑪、⑫を除く)	⑩の量のうち、認定 熱回収施設設置者 である処理業者への焼 却処理委託量	⑩の量のうち、認定熱回収施設 設置者以外の熱回収を行って いる処理業者への焼却 処理委託量	⑩の量のうち、委託し て焼却等の中間処理 した量(⑬～⑭を除く)	⑩の量のうち、直接 委託して埋立て最終 処分した量	⑩の量のうち、優良認 定処理業者への委託 処理量	②の量と⑧の量を 合計したもの(自動 計算)	③の量と⑨の量を合計 したもの(自動計算)
1	600 廃プラスチック A工程	150							150						150	0	0	
2	600 廃プラスチック B工程	250							250		250					0	0	
3	300 廃油 C工程	80	40						40	40						40	0	
4	200 有機性汚泥 D工程	12,800			12,800	1,100	11,700		1,100							0	0	
5	200 無機性汚泥 E工程	3,000			3,000	280	2,740		280							0	0	
6	400 廃酸 F工程	1							1							0	0	
7																0	0	
8																0	0	
9																0	0	
10																0	0	
11																0	0	
12																0	0	
13																0	0	
14																0	0	
15																0	0	
16																0	0	
17																0	0	
18																0	0	
19																0	0	
20																0	0	
合計		16,281	40	0	15,800	0	1,380	14,440	0	0	1,801	40	250	0	0	150	40	0

(注1)トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

今年度【平成〇〇年度】目標

記載例

報 告 者						
住 所	名 称	担当部署	担当者名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の住所	産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の名称	報告担当部署の名称	報告担当者の氏名	報告担当部署の電話番号	報告担当部署のFAX番号	報告担当部署の電子メールアドレス
大阪府大阪市中央区大手前2丁目	大阪大手前化学株式会社	総務部庶務課	大阪 太郎	06-0000-0000	06-0000-0000	

産業廃棄物の種類	計 画 の 目 標											②+⑧	③+⑨							
	①排出量 (t)	②自ら直接 再生利用した量 (t)	③自己直接埋立 処分又は海洋投 入処分した量(t)	④自ら中間処理した ⑤④のうち 熱回収を行った量 (t)	⑥自ら中間処理 した後の残さ量 (t)	⑦自ら中間処理 により減量した量 (t)	⑧自ら中間処理 した後再生利用 した量 (t)	⑨自ら中間処理した 自ら埋立処分又は海 洋投入処分した量(t)	⑩直接及び自ら 自己処理した後の 処理委託量 (t)	(⑪=①-②-③-④+⑥-⑧-⑨)=⑫+⑬+⑭+⑮)					⑫+⑬	⑭+⑮				
										委 託 先 による 区 分							⑯優良認定処理業者 への処理委託量(t)	⑰再生利用 を行った量(t)	⑱自ら埋立処分又は海洋 投入処分を行った量(t)	
コード	名 称	発生した産業廃棄物の種類ごとの量	①の量のうち、中間処理をせず直接再生利用した量	①の量のうち、中間処理をせず自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	①の量のうち、自ら中間処理した産業廃棄物の当該中間処理前の量	④の量のうち熱回収を行った量	⑥の量のうち、自ら中間処理を行った後の量	④の量から⑥の量を差し引いた量	⑧の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量	⑥の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量	中間処理及び最終処分を委託した量	⑪の量のうち、処理業者への再生利用委託量(⑬、⑭を除く)	⑪の量のうち、認定熱回収施設設置者への処理委託量(t)	⑪の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への委託処理委託量	⑪の量のうち、委託して破砕等の中間処理した量(⑮-⑬を除く)	⑪の量のうち、直接委託して埋立て最終処分した量	⑪の量のうち、優良認定処理業者への委託処理量	⑫の量と⑬の量を合計したもの(自動計算)	⑭の量と⑮の量を合計したもの(自動計算)	
1	600 廃プラスチック A工程	130									130						130	0	0	
2	600 廃プラスチック B工程	200									200		200					0	0	
3	300 廃油 C工程	60	50								10	10						50	0	
4	200 有機性汚泥 D工程	12,000		12,000		1,800	10,400				1,800							0	0	
5	200 無機性汚泥 E工程	2,700		2,700		260	2,430				260							0	0	
6	400 廃酸 F工程	1									1							0	0	
7																		0	0	
8																		0	0	
9																		0	0	
10																		0	0	
11																		0	0	
12																		0	0	
13																		0	0	
14																		0	0	
15																		0	0	
16																		0	0	
17																		0	0	
18																		0	0	
19																		0	0	
20																		0	0	
	合計	15,091	50	0	14,700	0	1,860	12,830	0	0	2,201	10	200	0	0	0	0	130	50	0

(注1)トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
平成〇〇年〇〇月〇〇日	
堺市長様	
提出者 住所 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 氏名 大阪大手前化学株式会社 代表取締役社長 大阪太郎	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 06-0000-0000	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	大阪大手前化学株式会社 堺工場
事業場の所在地	堺市△区××町0-0-0
計画期間	平成〇〇年4月1日～平成〇〇年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	16：化学工業
②事業の規模	製造品出荷額：〇〇〇〇〇万円
③従業員数	〇〇〇人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成〇〇年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック A工程	廃プラスチック B工程
	排出量	150 t	250 t
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> ・生産設備の更新を順次行い発生を抑制した。(廃プラスチック) ・排水処理設備の修繕を行い汚泥の脱水効率を高めた。(汚泥) 		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類 A工程	廃プラスチック類 B工程
	排出量	130 t	200 t
	(今後実施する予定の取組) 上記に加え、下記の取組みを実施予定 <ul style="list-style-type: none"> ・樹脂生産工程をクローズ化し、発生を抑制する。(廃プラスチック) ・ペレット製造機の温度調整により発生を抑制する。(廃油) ・排水処理設備の更新を検討する。(汚泥) 		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・廃プラスチック、廃油、有機性汚泥、無機性汚泥、廃酸はそれぞれに分別、保管をしている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

廃油	C工程	有機性汚泥	D工程	無機性汚泥	E工程	廃酸	F工程
	80 t		12,800 t		3,000 t		1 t

②計画

廃油	C工程	有機性汚泥	D工程	無機性汚泥	E工程	廃酸	F工程
	60 t		12,000 t		2,700 t		1 t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

t	t	t	t

②計画

t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成〇〇年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック A工程	廃プラスチック B工程
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） ・ 廃油をボイラー燃料として再利用した。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック A工程	廃プラスチック B工程
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） ・ 再生利用量の拡大を図る。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（平成〇〇年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック A工程	廃プラスチック B工程
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック A工程	廃プラスチック B工程
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
（今後実施する予定の取組） ・ 有機性汚泥を高効率の脱水機（フィルタプレス）に更新することにより、含水率を減少させる。			

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

廃油 C工程	有機性汚泥 D工程	無機性汚泥 E工程	廃酸 F工程
40 t	0 t	0 t	0 t

②計画

廃油 C工程	有機性汚泥 D工程	無機性汚泥 E工程	廃酸 F工程
50 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

廃油 C工程	有機性汚泥 D工程	無機性汚泥 E工程	廃酸 F工程
t	t	t	t
0 t	11,700 t	2,740 t	0 t

②計画

廃油 C工程	有機性汚泥 D工程	無機性汚泥 E工程	廃酸 F工程
t	t	t	t
0 t	10,400 t	2,430 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

t	t	t	t

②計画

t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

t	t	t	t
t	t	t	t

②計画

t	t	t	t
t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成〇〇年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック A工程	廃プラスチック B工程
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） ・実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック A工程	廃プラスチック B工程
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） ・予定なし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成〇〇年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック A工程	廃プラスチック B工程
	全処理委託量	150 t	250 t
	優良認定処理業者への処理委託量	150 t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	250 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者	t	t
	（これまでに実施した取組） ・産廃情報ネット等の情報を参考に、委託基準を遵守できる産廃処理業者を選定しており、定期的に処理状況の現地確認を行っている。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

廃油 C工程	有機性汚泥 D工程	無機性汚泥 E工程	廃酸 F工程
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

廃油 C工程	有機性汚泥 D工程	無機性汚泥 E工程	廃酸 F工程
0 t	0 t	0 t	0 t

①現状

廃油 C工程	有機性汚泥 D工程	無機性汚泥 E工程	廃酸 F工程
40 t	1,100 t	260 t	1 t
t	t	t	t
40 t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

t	t	t	t

②計画

t	t	t	t

①現状

t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック A工程	廃プラスチック B工程
	全処理委託量	130 t	200 t
	優良認定処理業者への処理委託量	130 t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	200 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者	t	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子マニフェストの導入を予定しており、対応可能な処理業者であるとともに優良認定処理業者から選定することとしている。 ・委託処理業者に対しては、引続き定期的に処理状況の現地確認を行う。 			
※事務処理欄			

②計画

廃油 C工程	有機性汚泥 D工程	無機性汚泥 E工程	廃酸 F工程
10 t	1,600 t	260 t	1 t
t	t	t	t
10 t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

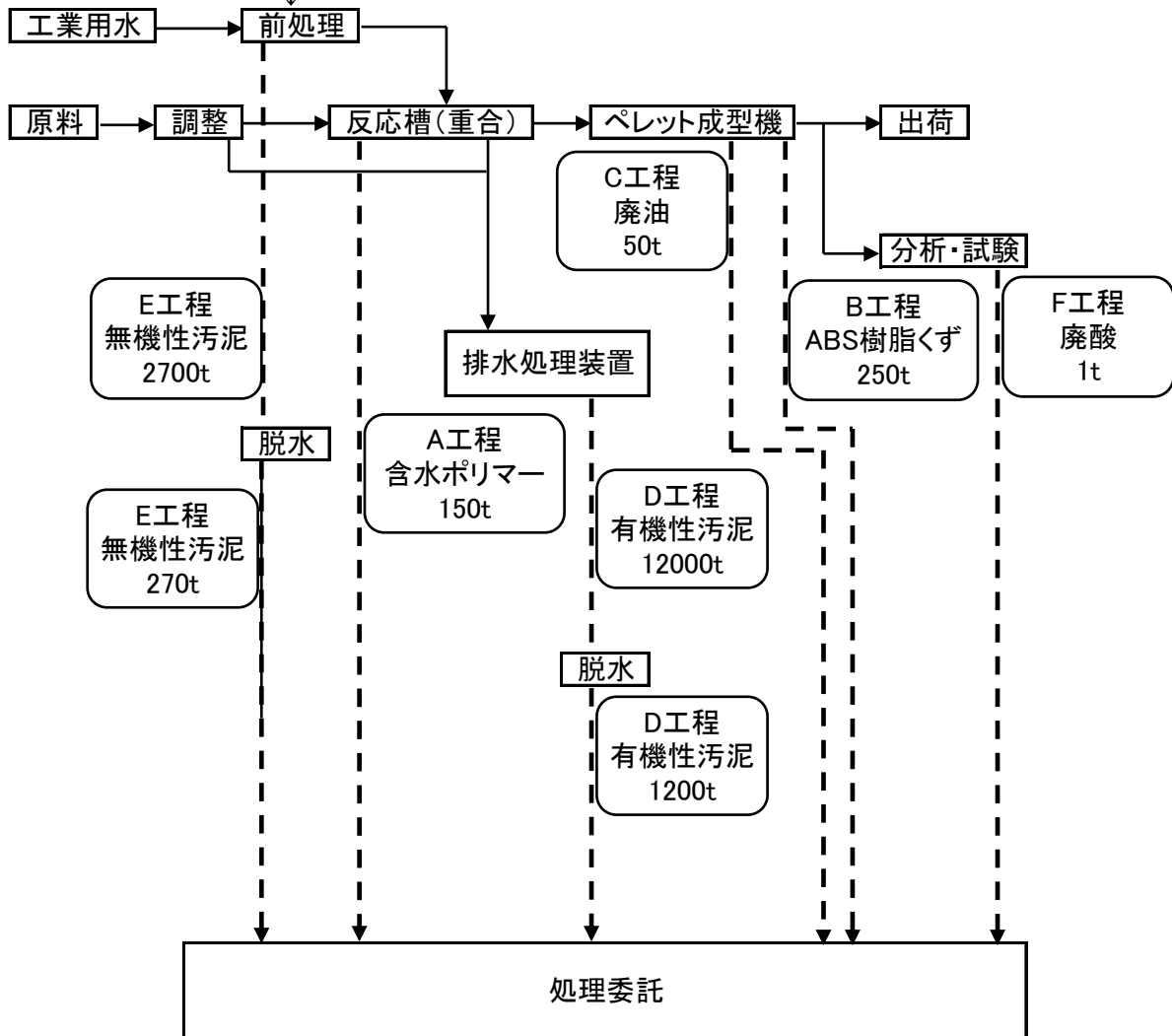
②計画

t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

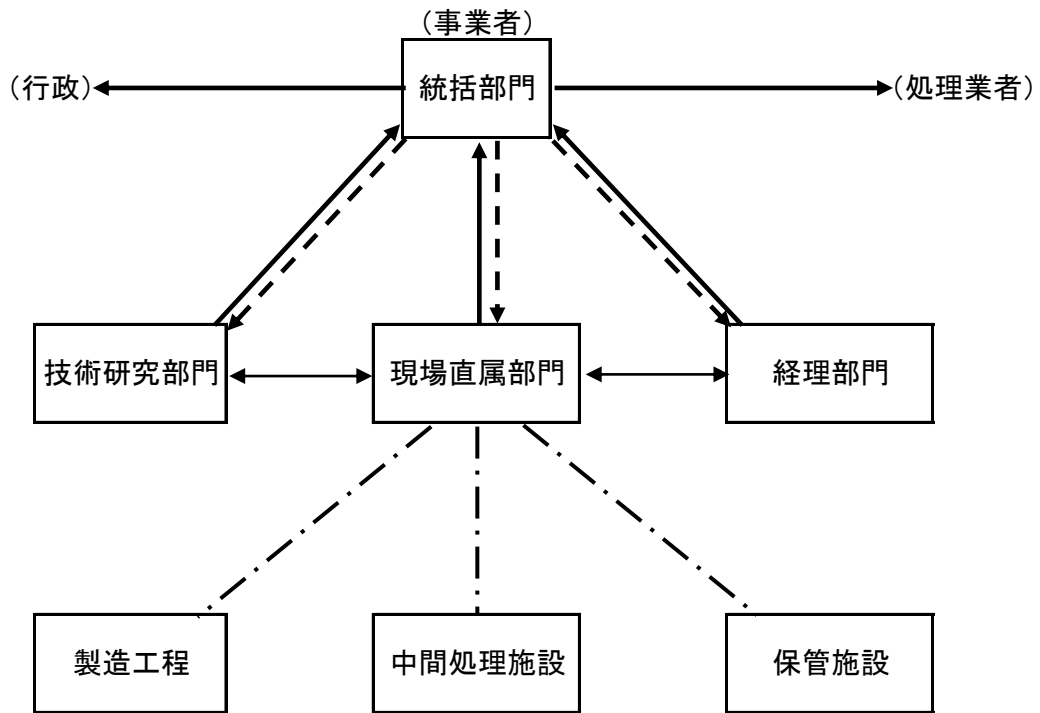
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
 - 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
 - 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
 - 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

〔産業廃棄物発生工程フロー〕
塩化第二鉄等



添付資料 管理体制図及び各部署の役割
〔管理体制図〕



—————▶ 報 告

-----▶ 指 示

←————▶ 相互連絡

-.-.-.-.-. 指 示

〔各部署の役割〕

部 署	役 割
<p>A 統括部門</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の発生から処分に至るまでの帳簿等を作成して統括的に把握管理 ・産業廃棄物の発生工程、種類ごとの発生量、排出量及び性状等のチェック、集計等 ・処理施設(事業場内・外)の定期的査察 ・行政に対する報告等 ・処理業者委託の委託契約、委託量、委託伝票(マニフェスト)等の管理 ・産業廃棄物の適正管理及び減量化等に関する社内啓発 ・各部署間の調整及び指示 ・廃棄物の資源化・減量化及び適正管理について検討し産業廃棄物処理計画の策定及びその実施
<p>B 現場直属部門</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の種類、性状、発生量及び排出量等の把握 ・各現場の施設の維持管理点検等 ・保管施設での保管量の把握、記録の作成等 ・中間処理施設の稼働状況の把握、記録の作成等 ・最終処分場の稼働状況の把握、記録の作成等 ・産業廃棄物の分析及び環境事象の分析、測定等 ・上記内容をAに報告
<p>C 技術研究部門</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製造工程の研究開発 ・産業廃棄物処理技術の研究開発 ・産業廃棄物減量化手法の調査研究 ・上記内容をAに報告
<p>D 経理部門</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の適正処理費用の算出 ・委託料金の支払方法による業者管理 ・上記内容をAに報告